

## ■視覚支援学校における実践事例

# 盲学校における多様な子どもたちへのDAISY図書・マルチメディアDAISY図書の活用について

東京都立久我山青光学園視覚障害教育部門  
名取 恵津子、三宅 洋信

### はじめに

盲学校の児童・生徒の実態について、「重度重複化」、「多様化」が言われるようになって久しくなりました。少子化で子どもの数自体が減っていることに加え、特別支援教育の推進により、地域の学校へ入学するケースも増え、盲学校に入学する児童・生徒の数は減少しています。少ない人数の子どもたちの中で、「重度重複化」、「多様化」の実態は、視覚障害に知的障害を併せもつ重複障害と簡単に言い切れない、より複雑なものになってきています。その中でも、視力はやや低いものの知的障害が主障害であったり、高次脳機能障害や発達障害などが原因で、視力の低さよりも視覚認知の障害があるケースが、近年増えているように感じます。これらの子どもたちに対しては、文字サイズやレイアウトなど見やすさに配慮した教材の提供や、ルーペや拡大読書器、単眼鏡などの視覚補助

具の使用の指導といった、従来の盲学校の指導では十分に力を伸ばせない面があり、新たな対応を迫られる課題となっています。

マルチメディアDAISY図書は、学習障害のある子どもたちにすでに多く活用されています。上述したような従来の盲学校の支援とは別の方策が必要な子どもたちの学習を支援する上でも有益であるはずですが、盲学校での利用は一部の学校を除いてあまり進んでいません。

また、DAISY図書についても、専攻科以外の学部では活用がなかなか進んでいないことが多いのが実情です。DAISY図書は、点字図書館の録音図書がほぼDAISY図書に切り替えられ、視覚障害者の世界ではごくあたりまえのものになっています。また、専攻科では国家試験をDAISYで受験する生徒もあり、日常的に活用されています。専攻科以外の学部でのDAISY図書の普及も、盲学校にとっ

て課題の一つです。

今回は、このような観点から、本校での二つの実践事例と、盲学校の教職員を対象として実施した研修会について報告します。

## 自分で操作して楽しむ—重複障害のある子どもたちへの活用事例 (1)

### <子どもの実態>

重度の知的障害を併せ有する小学部6年生の弱視の子どもで、音楽を聴くことや機器の操作に関心があります。これまでこの子どもは、見通しをもつことがむずかしく、不安定になってパニックを起こし、活動が困難になることがしばしばありました。文字学習は行っていませんが、文字への関心が高く、絵より文字を長く見ている場面もあります。これまでにプレクストークやマルチメディアDAISY図書の活用経験はありませんでした。

### <目的>

これまでCDラジカセなどで受動的に音楽や朗読を聴いてきましたが、自分でボタン操作することで、好きなフレーズや曲を聴いたり、自分で図書を見る経験をしたりすることができないかと考えました。

### <活用方法>

①再生専用のプレクストーク（「簡単カバー」あり）を用いて、CDなど

の音楽、お話を聞く学習を設定しました。

②マルチメディアDAISY図書を23インチディスプレイで150%に拡大して利用しました。



「簡単カバー」をつけたプレクストーク

### <利用の様子と成果>

新学期から利用を開始して1か月程度は、プレクストークの操作に関心は高いものの、ボタンと機能の関係を理解できず、自分の思いどおりにならないはがゆさを自傷で表現したり、教員に対して要求を伝えようとしていたりしていました。

2か月ほどすると、トラック操作と停止、再生といった、音に関するいくつかの機能を経験的に理解し、自分でCDを操作し、好きな曲を聴けるようになりました。これと同時に、苦手な活動内容でパニックを起こしていた場面でも、プレクストークを自ら抱え、これを頼りにしながら、移動教室や集会、調理などの見通しのもちにくい活動に落ち着いて

参加できることが増えてきました。

9月以降は学芸会にむけた活動で、教員が作成した場面とBGMを音楽トラックとして細かく区切ったCDを頼りに、場面展開や自分の出番のタイミングを理解していました。

この子どもは、5月時点では、単語として意味のある発語がありませんでしたが、現在は、「やった～」「でした」「したい」など、10種類程度の発語があるようになりました。

また、これまで日常的な活動の中で、BGMを含め音楽がなければ落ち着かない状況がありましたが、マルチメディアDAISY図書で、『しんかんせん』『はたらくくるま』を見たところ、BGMなしで画面を見ることができました。

さらに、通常版の『おおきなかぶ』『あいうえおにぎり』などを見たとき、文字の反転部分に視線を集中させて、文字を追っていました。音楽なしでも、文字を追うことができるようになり、新しい経験が広がりました。

## 正しい発音や言葉の世界を広げる —重複障害のある子どもたちへの活用事例(2)

### <子どもの実態>

中学部2年生、眼疾患はあるものの、視力面で日常生活に不便なことはない生徒です。知的障害、聴覚障害も

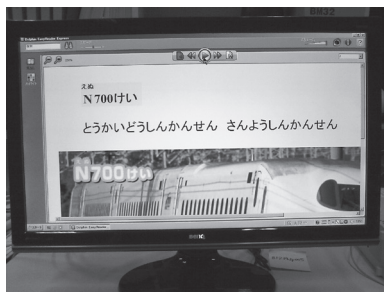
あり、会話は可能ですが、大勢の中での発言を聞き分けることはむずかしいことがあります。発音も不明瞭なため、自分の意思を十分に伝えることがむずかしく、清音と濁音、半濁音の区別なども課題です。体力が弱く欠席が多いため、毎日の授業での積み重ねがしにくい面があります。

### <目的>

読むことや読書を楽しみながら、濁音や半濁音を意識し、語彙を広げていくことが課題の生徒です。絵本の絵を楽しみながら、文字と音声同期するマルチメディアDAISY図書の特長を生かして、このような力を伸ばしたいと考えました。また、いくつかのお話を読んだ後に、自分で読みたいものを選択する、自分の意思で決める活動をさせたいと考えました。

### <活用方法>

- ①自立活動の時間に、パソコン室のパソコンを使ってマルチメディアDAISY図書を楽しみました。
- ②家庭にも貸し出し、家でもお話を読んでいます。



大型モニターで「しんかんせん」を楽しむ

### <利用の様子と成果>

最初に読んだのは『まるちゃんみっけ!』でした。各ページのどこかに「まるちゃん」が隠れていて、「まるちゃんみっけ!」というフレーズが繰り返されているので、自分からすぐに「まるちゃん」を探そうと、画面に集中していました。ページをめくると、さっと「まるちゃん」を探しだして、「あった」と指さしていました。一度読んだ後、「まるちゃん」のほかに「しかく君」を探したりしながらもう一度読みました。丸や三角、四角の形の確認にもなりました。

たまたま授業参観日で保護者が参観しており、「家庭ではなかなか本を読み聞かせる時間もないので、家でも使ってみたい」と申し出があり、同じCDを貸し出しました。次に読んだのは『11ぴきのねことあほうどり』でした。音声を聞きながら文字の確認もしたかったので、紙芝居風ではなく、通常版を利用しました。普段の会話が2語程度であるため、内容の十分な理解はむずかしかったかもしれませんが、画面をよく見て、「コロッケ」と言って指さしたり、最後まで読むと「終わり」と言ったりしながら楽しんでいる様子でした。

欠席の多い生徒で、まだ数回しか利用できていませんが、マルチメディアDAISY図書を使ってお話を楽しむ

ことができることがわかりました。学校、家庭でいろいろなお話を読みながら、自分で選択できる読書をめざしたいと思います。また、音声と文字を活用しながら本人も音読し、言葉の世界を広げていけたらと思っています。

### 盲学校図書館に関わる教職員を対象とした講習会

盲学校でのDAISY図書やマルチメディアDAISY図書の活用が進まない原因の一つとして、教職員にも、子どもたちの保護者にも普及していないことがあります。読書活動の担い手となる盲学校図書館の担当教職員も、プレクストークは学校にあるものの、使ったことがないという人も少なくないのが現状です。

そこで、まず盲学校図書館の運営に携わる教職員が使い方を覚え、その便利さを実感し、子どもたちや保護者に広げていけるようにしようと考え、プレクストークとマルチメディアDAISY図書の講習会を実施しました。対象は、関東・甲信越地区の盲学校図書館運営に関わる司書や司書教諭、図書委員などの教職員で、10校の盲学校からの参加がありました。参加校のうち1校では、学校全体で活用に取り組み、多様な実践を積み重ねていました。また、2名の点字

使用の参加者はプレクストークを日常的に使用しており、ユーザーの立場からの意見を聞くこともできました。しかし、それ以外の学校からの参加者は、操作の経験が多少ある程度の方が数名で、機器そのものを初めて操作するという人が過半数でした。



講習会の様子

講習会は、まずシナノケンシから講師を招き、プレクストークの操作を実際に体験しました。参加者一人ひとりに1台ずつプレクストークが用意され、まず「簡単カバー」をつけた状態で再生のために必要な機能を体験しました。その後、カバーを外し、さらに詳しい機能や録音機能の体験をしました。

午後にはマルチメディアDAISY図書について、横浜市立盲特別支援学校での実践事例の紹介の後、伊藤忠

記念財団の矢部さんを講師としてお話を伺いました。午前中同様、一人に一台ずつタブレット端末が用意され、実際に操作を体験することもできました。

参加者からは、「実際に機器を操作することができてよかった」「学校に戻ってさっそく使ってみたい」「もっと時間がほしかった」などの感想が聞かれました。今回の講習会は、今後の活用の糸口になるだろうと思います。また、校内の教職員や保護者を対象に、同様の講習会を行うのも、有効ではないかと感じました。

## おわりに

今回は、本校で少しずつ広がってきた活用の事例と、教職員対象の講習会についてご紹介しました。この報告をまとめながら、まずは教職員自身が、DAISY図書やマルチメディアDAISY図書に実際に触れ、操作の方法に慣れることが、活用を広げる第一歩につながるのではないかと感じました。盲学校の教職員が、DAISY図書やマルチメディアDAISY図書と子どもたちを結びつける役割を果たしていけるようになるように努めていきたいと思っています。